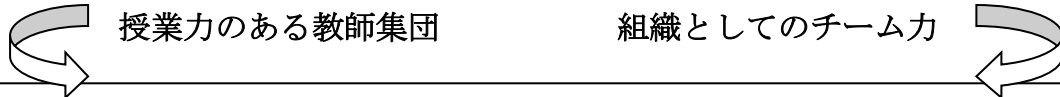


令和5年度 小山町立足柄小学校 学校評価書

1 学校教育目標・重点目標 学校教育目標・重点目標 学校経営の基本方針

これからの時代を生き抜くために、子どもたちに身につけさせたい真の「生きる力」は、自分の願いや思いを心ゆくまで表現し、主体的に仲間とかかわり合い、その見方や考え方の違いを尊重しつつ、折り合いをつけて、自分らしく生きていく力である。知っていること、できることをどう使うかを子どもたちには考えさせていきたい。だからこそ、子どもたちにとって力がつく魅力ある授業を核とした、子どもたちが笑顔で力いっぱいチャレンジできる学校づくりをしていく必要がある。確かな子ども理解に基づく授業づくりとあたたかな人間関係は車の両輪であり、そこにこそ力を注ぐ必要がある。



学校教育で、子どもたちにとって最大の教育環境は教師である。教育専門職のプロとしての自覚を持った頼もしい先生として、学び手の視点に立った授業力を高める。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、全ての子どもたちの可能性を引き出す。

個に寄り添い、個を大切にし、子ども理解を原点として、その子らしさを認め、組織として全職員で子どもたちの確かな学力や生きる力、温かな人間性を育む。

これらの実現のために以下のような目標を設定した。

- 学校教育目標 金太郎のような やさしく つよく たくましい子
- 重点目標 気づき 考え よりよく関わる
- 学校経営目標 気づき 創造し 関わり合う（連携する）
- めざす子ども像
 - ・学校生活の中で、楽しいことを見つける・創る子
 - ・人の良さを認め、人と関わろうとする子
 - ・相手に伝わるあいさつ、返事ができる子
 - ・自分の考えを自ら発信できる子
 - ・正しいと思うことを勇気と自信を持って実行できる子

目標とする姿を実現させるために、学校評価を行う。結果から実態を把握し、課題を洗い出す。課題に対しては、改善策を話し合い、決定したことを全職員で取り組む。

- ①前期（7月）1回 全児童、全職員、全保護者、学校運営協議委員を対象に実施する。
- ②集計結果を受け、学校評価部会（3つの部会）で結果を分析する時間を設け、部会で改善案を提案する。また、保護者からの質問点については、職員会議で共通理解をし、改善を検討する。結果は教育委員会に報告、学校運営協議会でも解説し、意見をいただく。
- ③後期（学年末）1回 評価者は前期と同じ。
集計結果を受け、評価を次年度に生かすため、前期同様、部会で検討、改善案を提案する。
- ④学力の実態把握は、文部科学省作成の全国学力学習状況調査、静岡県教育委員会作成の定着度調査の結果を活用し、本校の優れている点は伸ばし、課題のある点は重点的に指導する。

2 目標の達成状況

評価の項目の中の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の項目を足して達成率を算出した。

※表中の数字は、項目数 () は前期

	50%台	60%台	70%台	80%台	90%台	100%
児 童	0 (0)	0 (0)	1 (1)	4 (6)	1 5 (13)	0 (0)
保 護 者	1 (0)	0 (1)	3 (1)	2 (4)	7 (10)	5 (2)
教 師	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (4)	7 (7)	1 5 (14)
地 域	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	1 6 (14)

【児童】

(1) 達成率が向上した項目〔前期→後期〕 () はポイントの変化

- ・理由を付けて自分の考えを伝えることが楽しい。・・・84.1%→91.4%(+7.3)
- ・自分の目標に向かってがんばっている。・・・91.3%→97.1%(+5.8)
- ・外で元気よく遊んだり体力の向上に努めたりしている。・・・88.4%→92.9%(+4.5)
- ・学校は楽しい。・・・91.3%→95.7%(+4.4)
- ・困っているときに相談できる先生がいる。・・・94.2%→98.6%(+4.4)
- ・仲よし班での活動で協力している。・・・94.2%→97.1%(+2.9)
- ・人の心を傷つけたり差別したりしないよう気をつけている。・・・92.8%→95.7%(+2.9)
- ・好き嫌いせずに食べるよう努めている。・・・85.5%→88.4%(+2.9)

(2) 達成率が低下した項目〔前期→後期〕 () はポイントの変化

- ・正しい言葉づかいができる。・・・92.8%→88.6%(−4.2)
- ・読書をするのが好きである。・・・79.7%→75.7%(−4.0)
- ・学校の勉強がわかる。・・・94.2%→91.4%(−2.8)
- ・進んで気持ちの良いあいさつができる。・・・92.8%→90.0%(−2.8)

【保護者】

(1) 達成率が向上した項目および100%達成〔前期→後期〕 () はポイントの変化

- ・信頼できる先生がいる。(教職員は子どもたちを大切にしている。)・・・97.0%→100%(+3.0)
- ・重点目標を意識した学校教育がなされている。・・・98.5%→100%(+1.5)
- ・学校教育目標をみて本校が目指す子ども像がわかる。・・・98.6%→100%(+1.4)
- ・電話、連絡帳、たより等を通し、担任と連絡を密にとることができる。・・・98.6%→100%(+1.4)

(2) 達成率が低下した項目〔前期→後期〕 () はポイントの変化

- ・うちの子は家庭学習をしている。・・・87.0%→77.9%(−9.1)
- ・うちの子は体を動かすことが好きだと思ふ。・・・95.7%→91.2%(−4.5)
- ・うちの子は苦手なことにも最後まで頑張る子だと思ふ。・・・89.7%→85.3%(−4.4)
- ・うちの子は読書が好きだと思ふ。・・・61.8%→57.4%(−4.4)
- ・わたしは学校やPTAの教育活動に参加している。・・・82.4%→79.1%(−3.3)
- ・授業がわかる。(お子様は学校の授業を理解している。)・・・97.0%→94.0%(−3.0)

【地域の皆様】

◎達成率が向上した項目〔前期→後期〕および新たに100%達成 () はポイントの変化

- ・学校は交通安全や事故防止に適切に取り組んでいる。・・・80.0%→100%(+20)
- ・学校では集団登校や仲よし班活動など、異年齢集団での交流が図られている。・・・83.0%→100%(+17)

【教職員】

- (1) 達成率が向上した項目〔前期→後期〕および新たに100%達成 ()はポイントの変化
- ・自分の仕事に誇りをもっている。・・・88.9%→100%(+11.1)
 - ・研修テーマに向けた授業改善や工夫をしている。・・・90.9%→100%(+9.1)
 - ・自分の仕事にやりがいをもっている。・・・94.7%→100%(+5.3)
- (2) 達成率が低下した項目および低迷している項目〔前期→後期〕 ()はポイントの変化
- ・読書習慣が定着するような読書指導をしている。・・・81.8%→70.0%(−11.8)
 - ・子どもたちは場に応じた正しい言葉づかいをしている。・・・89.5%→84.2%(−5.3)
 - ・子どもたちは進んで気持ちのよいあいさつをしている。・・・89.5%→89.5%(±0)

3 目標達成のための取組み状況

- ・「理由を付けて自分の考えを伝えることが楽しい」の手立てとして、授業を中心に話し合ったり意見を伝え合ったりする場面を意図的に作り出している。
- ・「外で元気よく遊んだり、体力の向上に努めたりしている」ための手立てとして、運動に親しむ時間（チャレンジタイム）の確保があげられる。週日程に組み込まれた定期的な取組で、毎週水曜日の第2校時終了後に行っている。全校を3つのブロックに分け、それぞれが月ごとローテーションして種目を変えて15分間の運動に取り組んでいる。また、運動会やマラソン大会などの体育的行事に向け、練習の目的を十分に理解させたうえで計画的に練習を積み重ねた。
- ・「学校が楽しい」と感じるためには、「自分が生かせる場」が必要と考え、授業や特別活動など、多くの場面で「個の活躍の保証」に取り組んだ。行事後は必ず「振り返る時間」を設け、自己を振り返るとともに、仲間同士で取組を評価し合うことで、行事成功の喜びを分かち合えるような場を設けた。
- ・教育課程を編成するうえで、行事の精選においては十分に議論を重ねた結果、子どもたちにとって有益なものは残す方針を打ち立てた。昨今は各校で廃止されている「スキー教室」は、スキー場までの移動時間の短さ、小規模校による実施上の効率の良さ、および体力の向上や社会性の醸成などの教育的価値の高さ等を考慮し、継続することとなった。
- ・「困っているときに相談できる先生がいる」については、本校では「スマイルトーク」と称して個人面談週間を設けている。そこでは、普段ではなかなか話すことができないような悩みや困っていることも話題にすることで、子ども理解や生徒指導に役立てようとしている。また、普段の学校生活において生じた児童間のトラブルについては、小さな問題でも逐一家庭へ連絡し早急に対策を講じることを心がけている。

4 自己評価

- ・「理由を付けて自分の考えを伝えることが楽しい」については、前期は昨年度末の数値よりも向上し、後期はその前期よりもさらに向上した。3年間にわたる道徳を基盤にした研修の成果と捉える。また、受け止める環境があっただけで子どもたちは「伝えることが楽しい」と感じるができるため、仲間との関わり方をはじめとする人間関係を円滑にするためのスキルを日常的に指導してきたことも功を奏した。
- ・「外で元気よく遊んだり、体力の向上に努めたりしている」については、慌ただしく、体もまだ十分に目覚めていない早朝の時間帯を避けて中休みの前に実施したことが、生き生きと体を動かす姿につながったと思われる。また、終了後は「中休み」となるため、多くの子どもが運動後はそのままグラウンドで遊んでいて、「外で元気よく遊んでいる」ことを実感したと思われる。また本校は支援員の配置が充実しており、中休みや昼休みは積極的に外に出て、子どもたちと一緒に遊

んでいる。本校の低学年には、グラウンドで遊ぶ時は「教職員が立ち会う」というルールがある。担任が忙しい時は、級外の教員や支援員がフォローできるような体制が、子どものニーズに応える環境作りに役立っているとも言える。また、体育的行事に向けた取組では、子供たちの士気が高まり、生き生きと練習に取り組むことで体力の向上にも結び付いた。

- ・スキー教室は子供たちに大盛況で、事後のアンケートでも「来年もぜひ行いたい」との回答を得ることができた。スマイルフェスタ（足柄小祭り）などの文化的行事と合わせ、子どもたちの充実した学校生活を創出するための「行事の価値」を改めて感じる事ができた。
- ・「困っているときに相談できる先生がいる」という項目に関しては、児童、保護者ともに数値が向上した。生徒指導上の問題や児童間のトラブルの発生に対して、早急に、かつ丁寧な対応をとることで、児童および保護者からの信頼を得ることができたと捉える。

5 学校関係者評価

(1) すべての項目において100%の達成率を得た。

(2) 学校運営協議会では学校評価の結果を報告し、以下のような意見をいただいた。

- ・6年生を送る会での、3年生の機敏な行動や1年生が床に置いてある座布団を整える姿がとても良かった。発表の時だけでなく、それ以外の部分でも子どもたちは自分で考えて行動している様子が見えた。
- ・言葉づかいについては、子どもたちは自己評価が難しいのではないかと。
- ・目下の者への「呼び捨て」はよくないことを身をもって感じているが、親しさはどう表現すればよいだろうか。言葉づかいへの意識の低下が、良好な人間関係作りに影響しなければよいが。
- ・昔は「学年目標」など、意識したことはないが、大切な事だと思う。
- ・振り返りアンケートの質問には、子どもの様子がわからず答えにくいものもあった。

6 改善に向けた具体策

- ・言葉づかいについては、日々変化する人間関係や児童の社会性の発達を念頭に置き、授業や学級活動など、さまざまな場面で気になる表れが生じた場合には適宜指導していく。
- ・授業がわかるについては、学年が進むにつれ、学習内容が難しくなるため、つまりく子や定着が遅れる子どもが少しずつ現れてくる。宿題への取組にもていねいに行う子とそうでない子とで差が生じてきている。授業においては振り返りやまとめの時間を十分に確保することで定着をはかりたい。また、宿題への取組の確認をていねいに行い、必要に応じて家庭への協力を依頼する。
- ・あいさつについては、月ごとあるいは学期ごとなど、定期的に振り返りを行い、子ども自身に課題意識を持てるようにする。
- ・運動、遊び、体力向上については、先日寄贈されたの「大谷グローブ」の影響もあり、外でキャッチボールをする子どもが増えた。さらに市販のグローブをいくつか購入することで、ますます多くの子どもが野球を通して運動に親しみ続けることを願う。
- ・「困っているときに相談できる先生がいる」については、全員の児童が「よくあてはまる。」「あてはまる。」と回答できるよう、今後も子どもたちの様子を見取り、悩みや困りを訴えづらい子どもの気持ちに寄り添った指導を心がけたい。
- ・あいさつの数値低下は、「人間関係の慣れ」にともない、気持ちを伝えることの大切さへの意識や、相手への敬意等が薄れつつあることに起因すると考えられる。実際は来客や地域の方からは好評を得ている。挨拶の大切さは理解しつつも、いつしか実践範囲を選択してしまっていることを子どもたちに伝えたい。そして、月ごとあるいは学期ごとに「振り返り」の機会を設け、あいさつへの意識や実践について、子ども自身が考え改善しようとする心情を育みたい。
- ・読書については、数値上では達成度は低いものの、昨年度末に比べ向上している。チャレンジタ

イムや給食後など、読書をする時間では集中して読んでいる姿も見られる。ただ情報端末の活用が浸透し、本を読むこと以外にも楽しいことがあふれている現代社会において、活字を読み、そこから思い浮かぶ情景から自分なりの考えをもつことへの抵抗が「好きになること」を阻害していることも確かである。今後は「読書好き」を求めるのか、「本を読む機会を確保、維持する」ことを目指すのかなど、読書指導の在り方について根本的に議論の重ねる必要があると感じる。日常の中に読書に親しむ時間を設け今後も励行していくとともに、読み聞かせなども実施し、児童相互の交流にも役立てたい。